

## 第5章

# マレーシアと中国の貿易と直接投資

黄 磷

### はじめに

マレーシアの対中貿易額は2002年にシンガポールのそれを超え、東南アジアのなかで中国の最大の貿易相手国となった。中国製の繊維製品、家電製品や雑貨品が大量にマレーシアに輸出されているといった議論が現れた。しかしながら、1995年以降、約10年間におけるマレーシアと中国の貿易関係を詳しく分析すると、両国間の貿易関係にこうした議論とは異なる構造的な変化が生じたことがみえてくる。

また、中国製品の東南アジア市場への流入拡大が注目されると同時に、中国企業の東南アジア進出も話題にのぼるようになった。改革・開放政策のもとで、1979年からの約20年間、国内市場での厳しい競争を勝ち抜いてきた中国企業は、2000年ごろから世界経済のグローバル化の流れに乗って新たな成長空間を求めて海外市場にも積極的に進出するようになった。しかし、全体的にみて中国企業の海外直接投資（FDI）あるいは中国企業の国際化はいまだに初期の段階にある。東南アジア市場においても、中国企業のプレゼンスは目立つようになっているものの、その実態はまだ明らかにされていない。

そこで本章では、マレーシアと中国の貿易と直接投資の実態に焦点を当てる。まず第1節では、1995年以降の貿易額と貿易品目の変化を取りあげて、両国間の貿易関係の構造的な変化と現状を明らかにしたい。第2節では、両